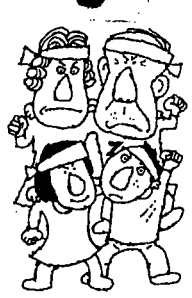
動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電） 千葉 2935・2936番
（公） 043（222）7207番

94.8.8 No. 4041

どこへ行くのか社会党！

労働運動の再生を！



存在理由の放棄

社会党が社会党であった存在理由のすべてを、社会党自らが投げだそうとしている。

七月二八日にひらかれた社会党中央執行委員会は、「党は自己変革の歴史をふまえ、安保・防衛政策を含む重要政策の転換を進める」との「方針案」を決定した。その内容は、すでに新聞でも報道されているとおり、①「現在の自衛隊は憲法の枠内にある、との新しい認識にたつ」、②「中立・非同盟路線は、歴史的役割を終えたものと認識する」、③「日米安保条約は引き続き堅持する」、④「『日の丸』は国旗、『君が代』は国歌であるという認識にたつ」、⑤「原発は、安全性のチェックをしながら認める」とする等、基本政策の全面転換である。

これ以外にも、「非武装」の主張は「人類の究極の理想」として、永遠の彼方に追いやられてしまった。また「平和維持軍（PKF）凍結解除を含めた法の見直し」にも「対応する」としている。実質改憲に他ならない「安保基本法」も「制定に取り組む」とした。

放棄された正義

社会党は、正義を主張し、労働者の権利を擁護し、戦争に反対して、その侵害者と闘うことを放棄しようとしている。「現実路線」と称して、道理を見捨てようというのだ。世の中のあらゆる権利は闘いとられたものである。それは、単なる思想とか立場ではなく、生き生きとした力だ。だからこそ、正義の女神は、一方の手で正義を量る秤をもち、もう一方の手で正義を貫くための剣を握っているのだ。「現実路線」の前に膝を折り、剣を握ることを忘れて久しい社会党は、その必然的な帰結として、秤まで放りだすに至ったのである。

対立なき時代？

この社会党の大転換は、労働運動にも大きな混乱を生みだしている。予測もつかない速度で変化する時代の流れに対して、危機感を抱き、「このままでは大変なことになる」という感覚もつ多くの労働者が、支持できる政党が全く無い、という状態のなかに投げだされてしまおうとしている。

戦後社会党は、労働者にとっては政治的指導部、資本家にとっては「安全弁」という、境界の位置を漂いながら、結局、労働者の支持と期待に支えられることによって存在してきた。社会党自身も、自民党が打ちだす様々な反動化の方向に反対し、歯止めをかけることが自らの存在理由であることを自覚し、その途を歩んできた。

ところが、今回の「転換」は、社会党自身が、「社会に一切の政治的対立は存在しない」と宣言してしまったようなものだ。社会は、深刻な階級対立と矛盾に満ちているにもかかわらず、あらゆる政治勢力が同じ言葉を合唱し、何ひとつ対立など存在しないかのような構図がつくられようとしている。

危険な道へ！

これは、単に「社会党がまた一歩後退してしまった」というにとどまらず、時代が極めて危険な道にふみ込もうとしていることを示す兆候だ。そもそも、七四議席しかもたない社会党委員長を首班とする内閣が、自民党のバックアップによって誕生したこと自体、その背後に、解決のつかない深刻な危機が横たわっていることの現われに他ならない。しかも、社会党首班であるがゆえに、労働者を積極的に戦争政策にとり込んでゆくという意味では、より反動的な性格をもつ可能性が高い。何よりも、今回の社会党の「路線転換」によって、翼賛政治体制の前段階のような政治の流れが事実上できてしまったのだ。言うまでもなく、翼賛政治体制の確立は、戦争に向かう時代の特徴である。

ここから始まる

このような事態は、ぼう大な労働者の意識が、これまでの枠を破って大きく揺れ動き始めることを意味する。多くの仲間たちが、闘う労働運動が存在することの大切さを痛切に感じ始めている。社会党への淡い期待が最後的に砕かれた混沌のなかから、「結局われわれは、誰かを頼りにすることはできない、自らの力と闘いによって、労働運動を甦らせなければ何も始まらない」という気運が芽吹き、葉をひろげることは間違いない。この流れは誰も止めることができない。ここから新たな歴史が始まる。創るのはわれわれだ。

大揺れの連合！

実際、労働運動の再生に向けた闘いは、大きなチャンスを迎えている。現在の事態を生みだした一方の「真犯人」である連合が、新生党と一体となった「政治方針」が破産したことを通して、四分五裂の危機にたっている。連合傘下からの指導部批判の声は、今までになく高まっている。怒りが街にあふれ始めている。

連合は、社会党に対して、「新生党と手を組まなければ、独自の行動を取る」と、締めつけに必死だ。しかし、連合がますます大混乱を深める ことは避けられない。

われわれの闘いが、下から連合支配を揺るがす可能性が大きく広がっている。今こそ、「全国にはばたこう」の方針の真価を発揮しよう！ 九・一八労働者集会を成功させよう！